

## 一人ひとりの人間に焦点をあてた安全保障を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。7月7日か七夕の日に京都国際会議所で行われた外務省主催の国際「人間の安全保障国際シンポジウム」に出席しました。人間の安全保障を考える時には、国家の安全保障だけでなく、一人ひとりの人間に焦点をあてた安全保障を考えることが大事であるという考えから、プロテクト and エンパワーメント、保護や能力強化が大事だという話を聞いてきました。その中で印象的だったのが、緒方貞子さんの日本の将来、世界の将来を考えたお話でした。この方は、国連高等難民弁務官事務所の弁務官をなされ、今はジャイカ・国際協力機構の理事長に今年の4月就任されました。私は、緒方さんを見ていると武士のような感じがしてなりません。素晴らしい生き方をされていて尊敬しています。明治の頃、アメリカの詩人のホイットマンは日本からの使節団を見て、このように言っていました。「西の海を越えて今、日本から渡来した頬に日焼けのあとをとどめ、日本の刀を携える礼儀正しい使節たち。馬車にゆったりと身をたくし、無帽のまま動ずる気配もなく、今日もマンハッタンの町を歩む。」と日本人の印象を書いています。このような風格・気品が緒方貞子さんには備わっていると思います。我々に一番足りないのは江戸時代や明治維新を駆け抜けた緒方さんのような生き方ではないかと思えます。ちなみに最近では年金問題が騒がれていますが、高齢者にお願いしたいことは自立です。そうすれば、いつまでも若々しく生きることができます。緒方さんは日本のため、世界のために責任感を持って仕事をしています。日本の寝たきり老人の定義は、65歳以上で6か月以上寝たきりである状態の人です。スウェーデンは4%、アメリカは7%、日本は34%です。割合が高すぎますね。高齢者は寝たままにしておくとなってしまう。歩く訓練をするなど、目的や役割を持てば、責任感を持った動ける老人になるでしょう。緒方さんをイメージして、孫のため、地域のため、日本のため、何か事を起こしてほしいと思えます。責任感を持って何かしていただければスウェーデンの4%に近づけると思えます。これから先、年金問題を考える時は若々しく生きることと一緒に考えていきたいと思えます。今お話した責任感の中にはお孫さんの教育も含まれると思えます。規範教育、物事の善悪の判断の基準を示してほしいと子供は思っていますが、誰も示してくれません。両親も子供におもねっていて叱ることをしません。自分の責任であるのにそれをしない人が多いようです。ですから、子供達は物事の善悪の判断の基準を身に付けないうまま小学校へ行ってしまふ。ですが学校ではそれは家庭で行うことだと思っていて、先生方も物事の善悪の判断の基準をあまり示さない。ですから是非65歳以上の方々に気づいたらしていただきたいのです。